

1 キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。

(二コリント5.14-20)

飛躍のための踏み台



どのみ言葉を生きようと、その実りはいつも同じです。愛に駆り立ててくれるからです。私たちの生き方を変え、他の人が必要としていることに注意を払うよう私たちの心を押しかし、兄弟姉妹のために生きるようにしてくれます。み言葉を受け入れて生きるとき、私たちの中にイエスが生まれ、私たちもイエスのように生きようになります。

福音を告げ知らせ、共同体の一致のために努力するよう使徒パウロを押し動かしていたのは、イエスと生きた深い経験でした。パウロはイエスに愛され、救われたと感じ、何も、誰も、自分をイエスから切り離すことはできないところまで、彼はイエスの生活の中に入ったのです。

私たちのうちにも、キリストの愛がこのように激しく燃えているでしょうか？

もし私たちが本当に神の愛を経験したのなら、私たちは同じように他の人を愛し、勇気を出して、分裂や争い、憎しみのあるところに行き、調和、平和、一致をもたらさずにはいられないでしょう。愛は私たちが障害を乗り越え、理解と交わりを通して人々と真の関係を築かせ、私たちは共に解決策を見いだすことができます。

(質問)



{ イエス様に愛されたと感じた時、感じるときはいつでしょうか？ }

(インタビュー)



神様との関係がありませんでしたが、思春期のとき、特別な体験があって、神様との関わりを再び持つことができました。16才のとき、父は治らない病気であることがわかったとき、空しい気持ちに落ち込みました。父は数か月のいのちだったので、その間は父が愛を感じるようにと願いました。簡単ではありませんでした。自分には、具体的に愛することが身に着いていませんでした。そのころ、フォコラーレの少年たちに出会いました。その一人のマリオは、ぼくが父を見舞うときに、一緒に行ってもいいかときました。病室に入る前に、父がアイスが好きかどうかと聞きました。プレゼントに持ってきてくれました。帰り道で、どうして来てくれたかと聞くと、「もしぼくの父だったら、だれかがいっしょに苦しみを担ってくれたらうれしいと思うから。」と答えました。それから、ぼくは、父が愛されたいように、愛するようにはじめました。ある日、病院に行くと、父がプレゼントの箱を持って言いました。「これは、愛を注いでくれたからだよ。」とてもうれしかったです。その3日後、父は天に召されました。ぼくが一番うれしく思ったプレゼントは、神様との関係を取り戻したことです。父と一緒に、再び祈るようになりました。神様との個人的な関わりが生まれたと感じるからです。

アゴスティーノ

(作業中)



私たちも困難を乗り越えて、心を注ぐことができます。そのためには、あらゆる困難を飛躍のための踏み台、皆を愛するためのうながしとらえることです。

私のノート



1